

戦場に散る



シュテヘン軍曹

レニ・シュテヘン軍曹は
現在この隊を指揮している
俺の上官だ。

軍曹の指揮はとても優秀で
何度俺たちの命を
救ってきたか分からない。
俺の最も尊敬する人物だ。



××で起きた
ゲリラ戦の後
シュテヘン軍曹は
消息をたった。
軍曹が生きている
望みに懸け
俺と同僚のAで
搜索活動を始めた。

一糸まとわぬ姿で
土に汚れた小汚い死体は
紛れもなく
シュテヘン軍曹の
ものだった。

死体の状況を見るに、
決して楽には死ねなかった
であろうことが
窺い知れた。

死体には
文字が刻まれており、
よく見ると
『これは正義の鉄槌だ』と
書かれている。



すると同僚のAはズボンを下ろし
勃起した陰茎を露にした。

「軍曹殿を殺した奴は許せねえが
それはそれとして
まさかこんなチャンスが
巡ってくるなんてな。」

お前もこれとやりたくて
死体を探してたんだろ？」

そこで俺はようやく
自分もまた同じように
激しく勃起し興奮していたことに
気が付いたのだった

俺はズボンの
チャックを下ろした。

レニ・シュテヘン(25)

狙撃され腹部と左足を負傷する。敵兵が意図的に即死しない箇所を狙って行った攻撃だった。その後複数人の男に暴行を受けながら死亡する。死後、死体に文字を刻まれ首を切り落とされた。



置き土産

「なんだこれ？
向こうの軍の奴らの
性処理女か？」

「足の腱も切られてっし
爪も全部剥がれてっし……
何したんだコイツ」



「ブッサイクな
顔してんな
体はクソエロいけど」

「俺たちに
使ってくれってか？
とんだ置き土産だぜ」

「何か情報
吐くかと思ったら……
こいつ『自分は中佐だ』とか
アホなことしか言わねー」

「もっとマシな
嘘つけよな(笑)」



「歯も全部
抜かれてやがる
酷えなあ。
おかげでフェラが
快適だけだよ」



「これか？
この前拾って
共用のオナホに
してんだよ」

「めっちゃ命乞いして
まだ死にたくない
みたいだったから
特別に生かしてんだ。
もう死にそうだけど。」



「軽くするために手足切ったけど
それでも運ぶの重いんだよな
そろそろ捨てようかな」

死体袋

今回の戦いでは
味方から多くの
死者が出た。
まだ回収
できていない
仲間もいる
ようだ。

リツカさん……
やっぱり
死んでたんだ。

悲しいけれど
綺麗な形で
死体も残ったことは
本当に良かった……。

リッカさんが
生きていたころ
この戦争を生きて
帰った後のことを
語り合ったことも
あったなあ



リッカさんの分も
必ず生きないと……！
だからどうか安らかに
お眠りを……



シュテヘン軍曹

乳のでかいアタリの女を
仕留めることができた。

命乞いのひとつもしない
つまらない女
ではあるが……。

俺が使える順番は
最後と言うことになった。
この女の持っていた
煙草でも拝借して
時間を潰すことにしよう。





しばらくして様子を見てみると
部隊の仲間が女の体に
文字を刻んでいるところだった。
どうやらもう既に女は
事切れてしまったようだった。
マジかよ……。
まあ死体の方が抵抗もされないし
良いかもしれない。



行為に及ぶ前に
女の首を切っておくことにした。
使える穴も増えて便利だし
一度女の首を切ってみたかったのだ。
首の骨は思いのほか硬くて
切り離すのに苦労した。

武装JKバディ

戦場で出会った二人はバディを組み、お互い生きて帰るため戦場を駆け巡った。しかし敵軍に追い詰められた二人は捕虜になってしまうのだった。戦場で捕虜にされた武装JKの行く末を彼女らはまだ知らない――



雛本 織(17)

普段から人を寄せ付けず、ひとりであることが多かったが百花とは不思議と打ち解けてることができた。

趣味：ピアノ
経験人数：0人

南 百花(17)

人当たりが良い性格。徴兵されて以来、織とバディを組み続けている。

趣味：動物の動画を見ること
経験人数：1人



「おうや」

「胸小さい方は
殺しとこっぜ」

「……えっ？」



「うそ……。
なんでっ……」

「血が…止まらな…
嫌……
死んじゃう……。」

「何でって
お前らみたいなエロいのを
使わずに生かして
返す訳が無いだろ」

「もう死んだのか
ちゃんと動画
撮ってたか？」

「おらっ
こっからが楽しみだぞ」



可愛そうな敵兵捕虜

「可哀想に」



彼女らを見て
抱く感情だった



2日前からあの少女は
輪姦され続けている
これで3周目だ

そろそろ処分され
あっちの少女のように
死体を弄ばれ始める
だろう

敵兵を——
それも死体を犯すなんて
常軌を逸している



戦場が彼らを
変えてしまったの
だろうか

あるいは
彼らの中に最初から
こんな残酷性が
存在していたの
だろうか

私は死体の処理を命じられ
ふたりの死体を土に埋めて
隠すことになった

女性兵士は
男たちの慰安の役目を
負わされる部隊も
あると聞く

このふたりのような
存在のおかげで
私がまだそれをしなくて
済んでいるのかもしれない
とも思った

私も敵軍に捕まったら
こうなるのだろうか

こんな惨めな最期は
死んでも嫌だ





雛本 織(17)

スタイルの良かった彼女は男たちに喜ばれ「アタリ」と言われ生前も死後も絶え間なく犯された。目隠しと猿轡を付けられたまま3日間犯され続け、斬首され死亡した後も取り外されることは無かった。

経験人数：45人

射精回数：139回(生前88回, 死後51回)

膣内：56回(生前47回, 死後9回)

陰内：13回(生前4回, 死後9回)

胸：18回(生前7回, 死後11回)

喉(首)：13回(生前0回, 死後13回)

喉(胴体)：7回(生前0回, 死後7回)

他：3回



南 百花(17)

捕らえられてすぐに頸部を切られ殺害された。
もう一人の捕虜へ恐怖心を与えるため
その場の判断で気まぐれに殺されたが、生きたままの
彼女を犯したかったという声も多く挙がった。
故郷の恋人との間に2回の性交経験があった。

経験人数：1人
(死後を含めると38人)

射精回数：92回(生前3回, 死後89回)

膣内：60回(生前2回, 死後58回)
唼内：26回(生前1回, 死後25回)
胸：1回(生前0回, 死後1回)
他：5回

愚かな上官

撤退など有り得ん！
このような失態を晒し
今更引くことは
出来ないっ！！

我が国の兵士なら
たとえ
玉砕しようとも
誇り高く戦い抜く
べきである！！

早く突撃だ！！



「貴様らっ……!!
これは重大な
反逆行為だぞ……!!
こんなことをしてっ……」

「まっ……待て……
撤退させる!
それで
いいんだろう!」

「服を
脱げたと……!?
ふざけッ……」

「待ッ……!!
撃つなっ!!
わかった……脱ぐ……
脱ぎますッ……」



「もっと早く
こうしておけば
仲間が無駄死にすることも
無かったのにな。」

「親のコネと
このエッロい体で
成り上がっただけの
無能のくせして
威張りやがって。」

「こいつの後任は
××少佐が適任だろう。」

「違ういな。
少佐なら俺たちを
まとめ上げてくれるさ。」

「こんなゴミ肉
みたいな女に
俺たちは苦しめられて
来たのか。」

「そろそろ移動しないと
敵軍が来る
かもしれないぞ。」

「せいせいしたぜ。
ずっとこのクソ女を
ブチ犯したいと
思ってたんだ。」

「コレはこのまま
置いてって良いだろ。
敵兵サンに酷いこと
されなきゃいいな(笑)」



地雷

地雷だ！
気を付けろ！！

痛……
頭ガンガンする

地雷……？

なにが……
起きたの……？

負傷兵を運ぶの
リスキーだし、
面倒くさいん
だよな

脚ないかも……
もしかして

ここで
便い潰して
おさましょっか

痛い……
最悪……

でも……
もしかしてこれで……
やっこの
クソみたいな戦場から
逃げられるのかな

アルマール
一等兵が……
はやく治療を……



「何を……
しているんですか……」

ずっとやって
みたかったんだ。

「やめてください……！
ベルド曹長……！
やめて……！」

フリッツさん……
ローベル……」

「嫌……」

みんな
アルメルちゃん
エロい体してる
よなって
言ってたんだよね。

「お願いします……
早く治療を……」

こんな
機会じゃなきゃ
このデカおっぱいに
触れないもんな。

「お願いします……
後でなら
いくらでも……
死んでしまいます……」



「あっ……
殺さないで……!」

「だれかつ……!!
ミヒヤエル……
ハンス……」

助けて!
ハインツ伍長……
ブルーノ……
誰か助けて!!」

ごめんなアルメーラー等兵……
でも長く苦しむよりも
ここで死んだ方が良いだろ

使いやすいように
綺麗に切って
くれよう



「アルメール」等兵は
名誉の戦死を遂げた！
我々はこの尊い犠牲のことを
忘れないだろう！」

「アルメール」等兵の分も
頑張って戦うゾー！
あっ首は
持ってっていいスカ？」



姿なき狙撃手

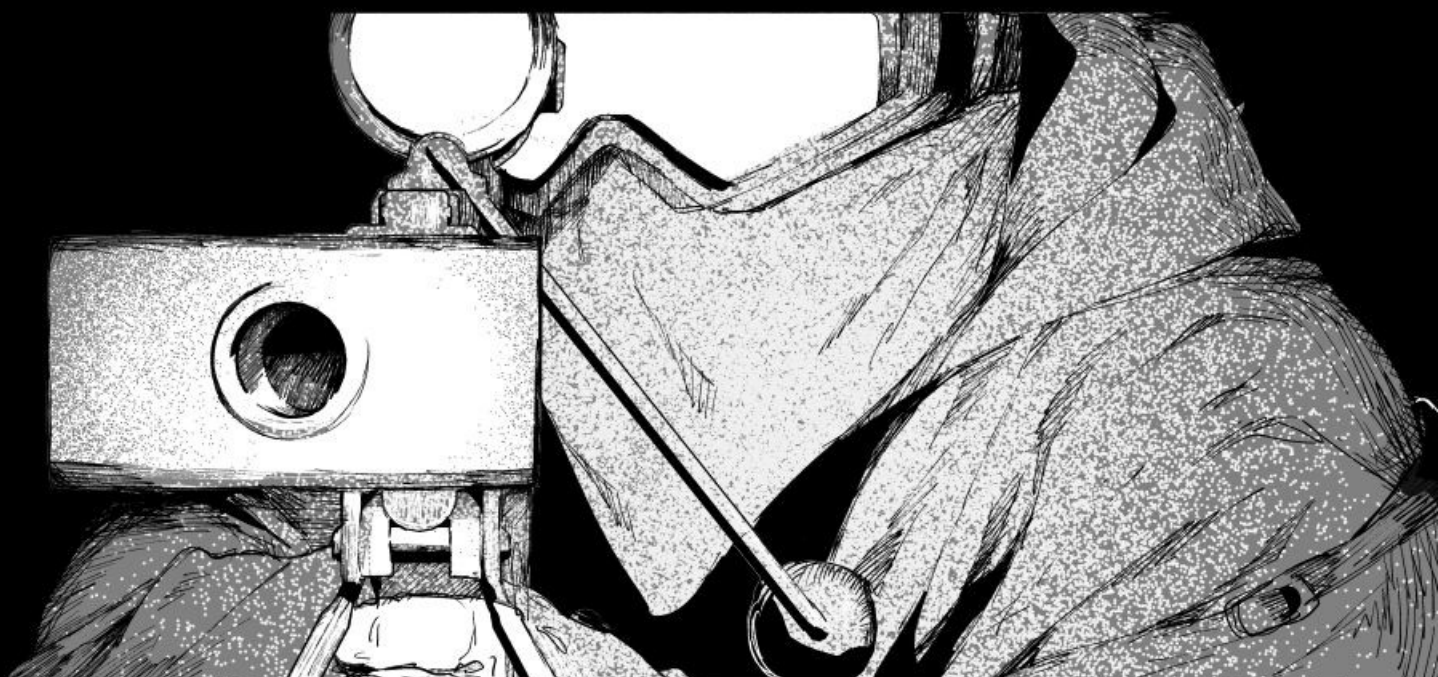
某国の擁するスナイパー

通称《^{ゴースト}姿なき狙撃手》

6年前から活動を
始めたと見られ、
これまでに数多の戦況を
引っくり返してきた。

いつしかその人物は
戦場の英雄——
あるいは悪魔と
呼ばれるようになった。

その人物が
撃ち殺してきた人数は
数千に及ぶとも
言われている



決して人前に姿を現さず
味方の兵士すらも
その人物を知ることはない。

「戦線に復帰した
歴戦のスナイパー」——

「開発された
新型のAI狙撃兵器」——

「巧みに生み出された
架空の存在」——

噂は様々に飛び交っている。

この女が
数え切れぬ程の
我が同胞たちの
命を奪った
悪魔——
《ゴースト》!!



只今から
処刑を始める!!

こいつが本当に
あの《ゴースト》
なのか……!?

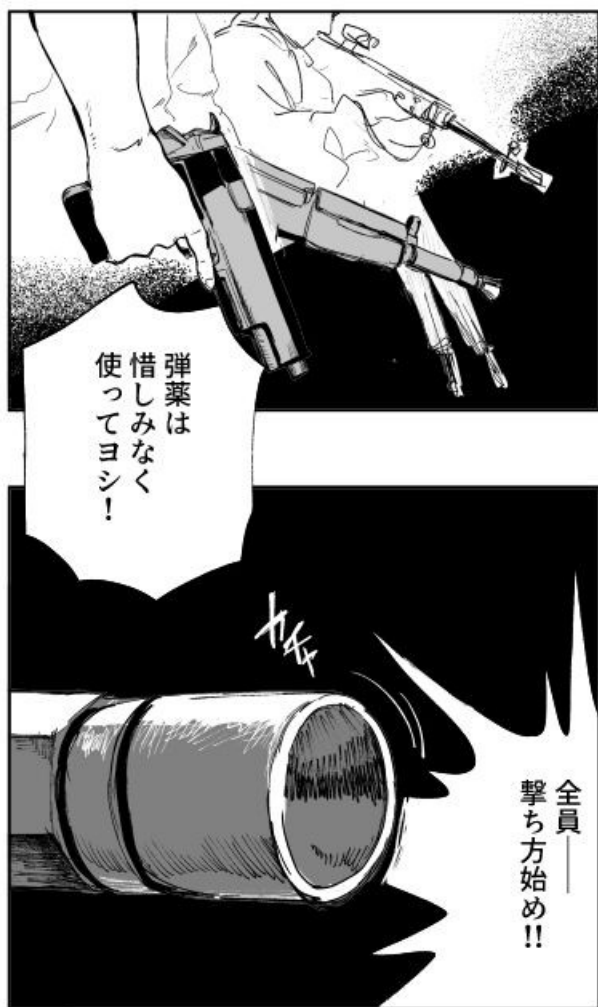
まさかこんな
若い女子
に今まで……

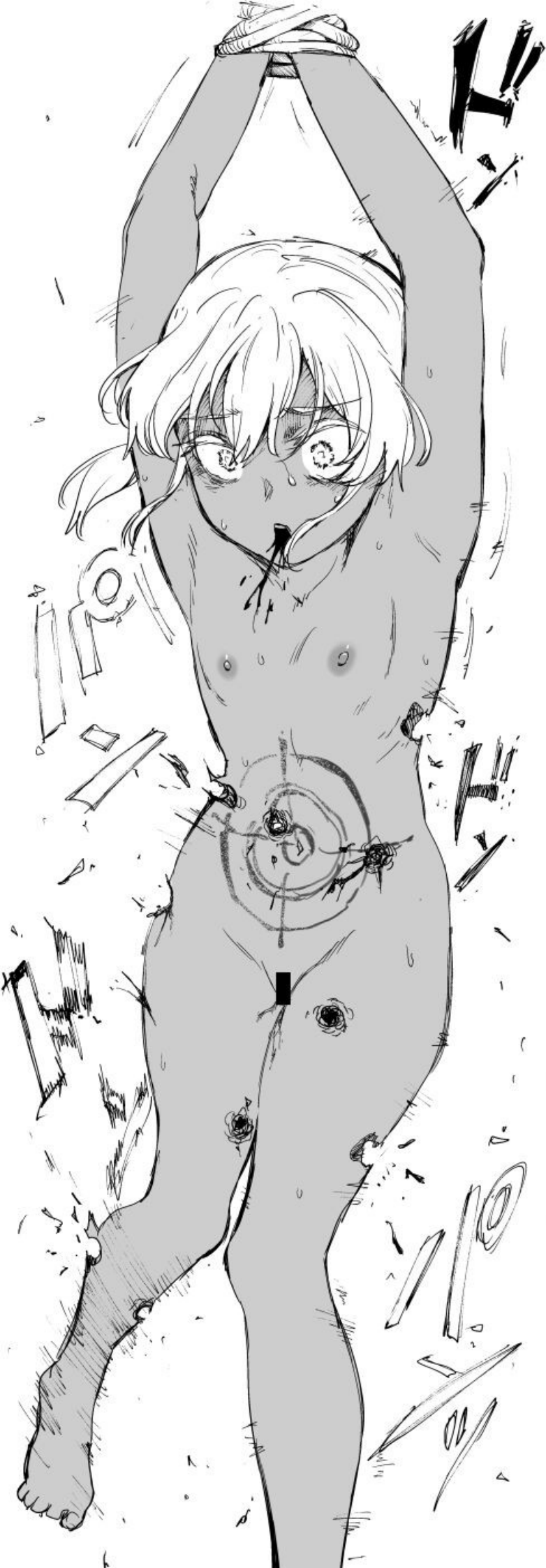
あんな
カワイイ顔
してなあ……

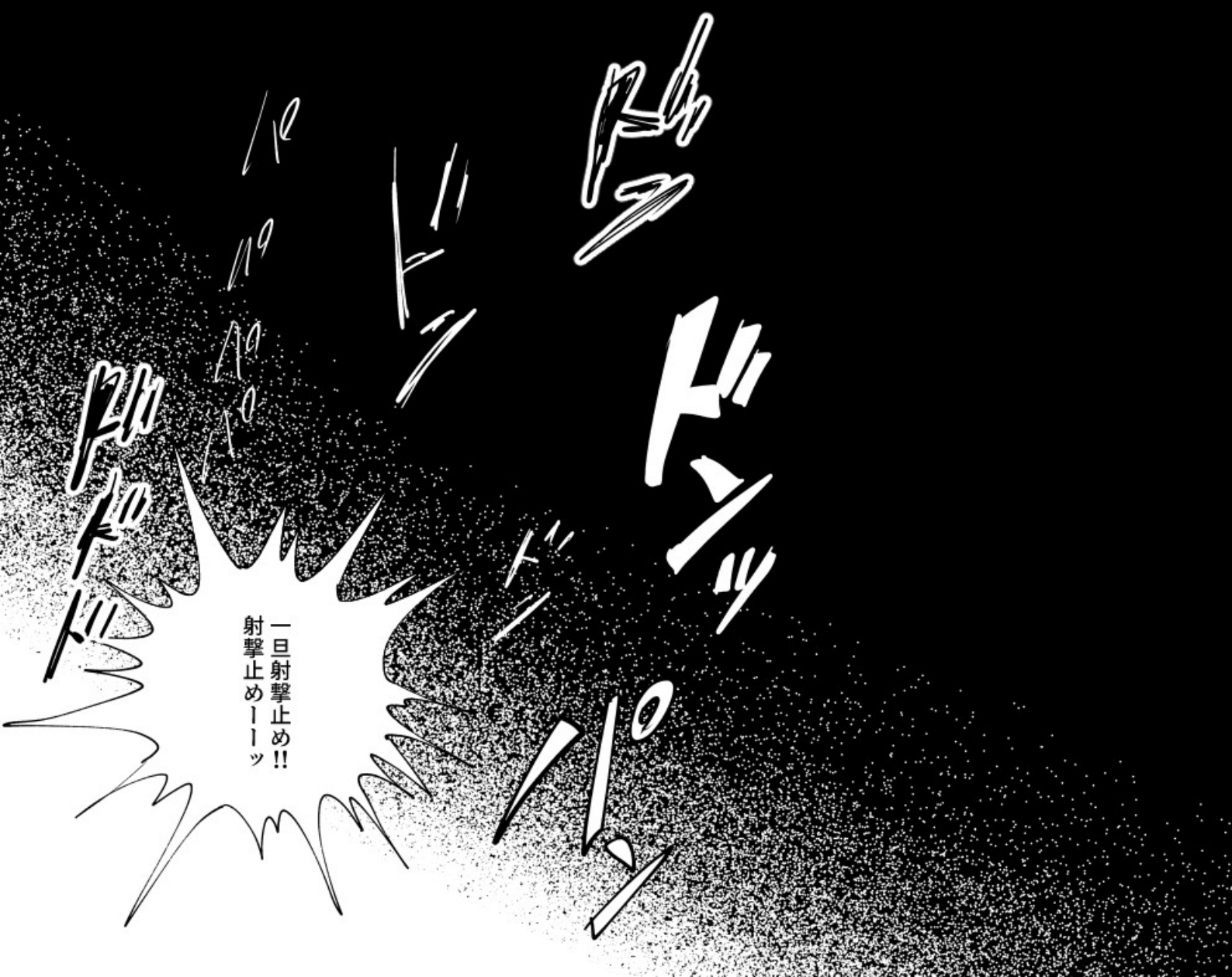


弾薬は
惜しみなく
使ってヨシ!

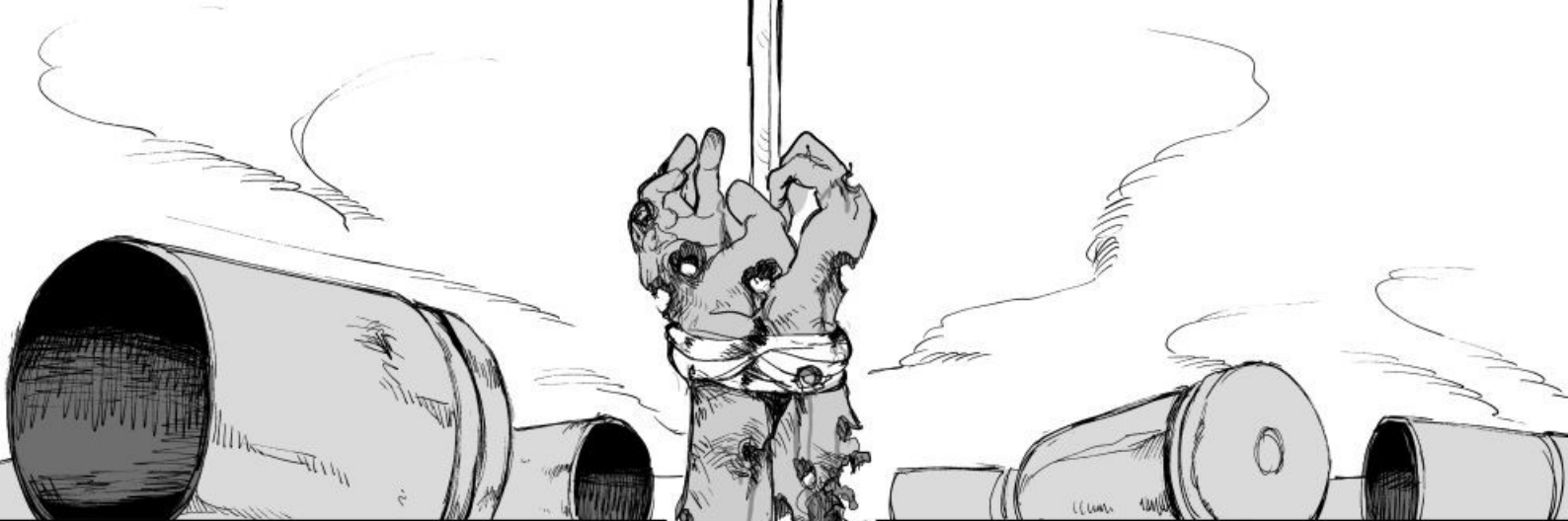
全員——
撃ち方始め!!







一旦射撃止め!!
射撃止めーッ



「死亡確認ッ」

「これが伝説の
最期とはな」

「俺の娘と
そんな変わらない
くらいの歳
なのになぁ……」

「こんなもんじゃ足りないだろ。
俺たちの仲間に
撃ち込んできた弾丸の分を
この体で償わせないと……」

「発砲再開だ！
その姿なくなるまで
破壊し尽くすのだ!!」

「もう的の部分
なくなっちゃったよ……
次は皆で首落としてみね？」

カル・マニスタ(16)

見捨てられたその地区は
とっくに敵軍の占領を
受けているはずだった。

敵軍を食い止めていたのが
たった一人の民間の
スナイパーであったこと……

そしてそれがまだ
10歳にも満たない
少女だったことは
軍の人間の度肝を抜いたのだった。

以来彼女は軍に飼われ、
スナイパーとしての英才教育受けながら
戦場で活躍し名を挙げていった。

人前に姿を見せないスタイルから
《^{ゴースト}姿なき狙撃手》と呼ばれるようになる。

現在は読み書きの勉強をしている。



死肉漁り

この戦場で
手を付けられていない
女の死体は珍しい。

良い拾いものに
出会えたようだ。



この兵士は
名前や顔写真が載った
軍の身分証明書を
携行している

これがとても有難い



記念に拝借しておく

服を脱がし好きだけ死体を犯す。
この背徳感は生きた女では
とても味わうことができない。

今回は好みの上物だったこともあり
三回ほど射精した。



死体の写真をたっぷり撮る。
そして必ずパンツは頂いていく。
後で思い出して自慰をするのに
とても役に立つのである。
コレクションはこれで7枚目だ。



白旗

白旗を上げ降伏しようとした
ようだが……
間違えられて殺されたのだろうか。
あるいは――



まずはパンツを拝見

白旗よりも
真っ白いパンツだ。
こっちを見せてれば
助かったかもな(笑)



もちろん死体は
使わせてもらう。



彼女は撃たれる間際に
何を思ったのだろうか。
死後犯されることを
想像する余裕は
あっただろうか。

そんなことを
思っていると
どんどん
興奮してくる。



せっかくなので
白い液体をたっぷりかけてやった。
これだけ白くすれば
今度は見間違えられることも無いだろう。

安否確認



自殺……
じゃないよなこれ

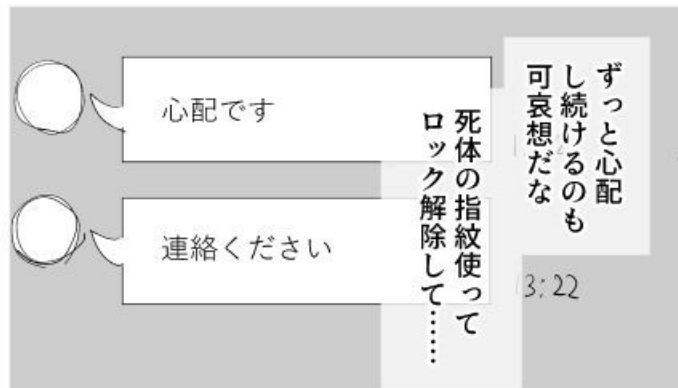
向こうのJK兵士か……
こんな若い女の子まで
徴兵するとか
正気じゃねえな

外傷も無いし
生きたまま吊るされて
殺された感じが
可哀想に……



若いだけあって
具合良いな

こんな娘を戦場に出したら
こうなるって
分かり切ってるのに
向こうの国は
酷えことするぜ



16:55

娘さんは今
こうなってますよと...
これでヨシ!

